

## S3

## 生命の定義、起原、進化、認識

## Definition, Origins, Evolution, and Recognition of Life

胸組虎胤

(鳴門教育大学)

Toratane Munegumi

(Naruto University of Education)

## 1. 生命の定義をする意味

生命の定義は本学会の1つのゴールであり、通過点でもあり、さらには新たな出発点となるという観点から考えていきたい。過去から現代に向かう化学進化学者、現代から過去に向かう生物進化学者にとって、生命の定義は研究のゴールを決めることである。これらの研究はトンネルを両方向から掘っているようなものであり、到達点が決まっていなければ、トンネルはつながらない。一方、生命の起原を通過点と考える研究アプローチもある。宇宙科学者にとって、素粒子の誕生、宇宙の進化、生命の起原と進化は物質進化の一環であり、生命の起原は通過点に過ぎず、生命の定義は物質進化の一事象をどこに置くかの問題となる。さらに、生命の定義は過去の方角へ化学進化を見ること、現代の方角へ生物進化を見る出発点ともなる。

## 2. 生命の定義に関し、注目すべき3つの考え方

(1) 生命の属性を、①自己を維持することができる自動機能を持つ、②自己複製能力を持つ、③進化すること、と定義している研究者がいる[1]。オーソドックスな捉え方である。

(2) 生命を以下のように捉える研究者もいた[2]。①主観的生命と客観的生命、②個としての生命(ミクロの生命)と全体としての生命(マクロの生命)、③肉体的生命と精神的生命、④生物的生命と文化的生命、⑤地球上の生命と地球外の生命。これは包括的な捉え方である。

(3) 生命(Life)に対し、生命体(Organism)という言葉を使う研究者がいた[3]。我々はどちらの言葉を使うべきだろうか。

## 3. 生命に関する中学生の認識

中学生に対し、生命と物質の間の学習項目(酵素)についてのアンケートを行なったところ、半数以上が、「酵素が生命か物質かわからない。」と回答した。これは日本の教育内容と方法の問題点であるが、学問的認識と一般人の認識とのずれが生じる可能性も示唆している。

<参考文献>

[1]中村運、『生命進化：40億年の風景』、化学同人(1994).; [2]渡辺格、『新しい人間観と生命科学』、講談社学術文庫(1979).; [3]岡田節人、『生命体の科学』、人文書院(1994).